

6. 当院の PVI の現況

(仙台循環器病センター循環器内科) 田中一樹・藤井真也・明石まどか
八代 文・藤森完一・小林 弘・八木勝宏・内田達郎

第 III 部 16: 35~17: 15

座長 (済生会栗橋病院) 太田吉実

1. 胃印環細胞癌による pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM) の 1 例
(済生会川口総合病院循環器内科) 寺嶋 豊・上野彰子・小村 悟・那須野暁光・田中孝幸・内藤直木・船崎俊一
2. 心臓カテーテル検査における Qp/Qs の合理的な算出法の試み
(東京女子医科大学八千代医療センター) 笹川佳苗・山田雄一郎・林 慶子
嶋崎健介・本田 淳・河原井浩孝・春田昭二
3. Waist circumference predicts abnormal left ventricular relaxation in men: data obtained through thorough medical examinations in healthy subjects
(東京女子医科大学附属青山病院循環器内科) 関口治樹・島本 健・尾崎友里
清水 香・高橋夕美子・巽 藤緒・石塚尚子・川名正敏
4. Oxygen Preconditioning Prevents Contrast-induced Nephropathy (Option CIN Study)
(¹ 国立病院機構横浜医療センター循環器内科, ² 西新井ハートセンター病院循環器内科,
³ 東京女子医科大学循環器内科, ⁴ 東京女子医科大学附属青山病院循環器内科, ⁵ 横浜総合病院ハートセンター)
関口治樹¹・網代洋一¹・内田吉枝¹・石田一成²・大槻尚男¹・服部英敏¹・嵐 弘之³・小林康徳¹・重城健太郎³
山口淳一³・伊井正明¹・岩出和徳¹・田中直秀¹・島本 健⁴・鶴見由起夫⁵・川名正敏⁴・萩原誠久³
5. 女子医大における慢性血栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈バルーン拡張術
(東京女子医科大学循環器内科) 芹澤直紀・嵐 弘之・山田典弘・南雄一郎
鈴木 豪・山口淳一・志賀 剛・萩原誠久

HIJ-PROPER 現状報告 17: 15~17: 25

(東京女子医科大学循環器内科) 渡辺絵梨沙

閉会の御挨拶 17: 25~17: 30

(東京女子医科大学循環器内科主任教授) 萩原誠久

【第 I 部】

1. 重症右室梗塞の 1 例

(荻窪病院心臓血管センター循環器科)

溝淵景子・樋口 諭・熊谷麻子・井上康二・
小金井博士・遠田賢治・石井康宏

74 歳女性。意識障害を主訴に近医へ救急搬送。心電図上, II, III, aVF で ST 上昇を認め、急性心筋梗塞疑いで荻窪病院へ転送となった。来院時、完全房室ブロックであったが意識は回復していた。心臓超音波検査で左室下後壁、右室の壁運動低下を認めた。緊急冠動脈造影では右冠動脈 #1 が完全閉塞していた。右心系では右房圧の上昇を認め、さらに右房、右室、肺動脈、肺動脈楔入圧まですべてほぼ同じ波形であった。右冠動脈 #1 にステントを挿入したが、多量の血栓により末梢血栓をきたし、最終造影にて TIMI-1 であった。右室梗塞を伴う下壁梗塞により血行動態が不安定でもあり、大動脈バルーンポンピングを挿入、カテコラミンを併用し全身管理を行った。発症 2 日後より右室の壁運動は徐々に改善、循

環動態の改善を認めた。退院前の造影では右冠動脈 #1 は造影遅延なく再開通していた。

右冠動脈近位部の完全閉塞により血行動態を乱す重症右室梗塞を経験したので文献的考察を加え報告する。

2. Iliac compression syndrome の診断における下肢静脈超音波検査での呼吸性変動評価の有用性

(東京都保健医療公社荏原病院循環器科)

有馬秀紀・仁禮 隆・鈴木 太・後藤耕介・
山田智広・日吉康長・中村憲司

【背景】左総腸骨静脈が右総腸骨動脈によって圧排される Iliac vein compression syndrome (IVCS) は重篤な深部静脈血栓症 (DVT) を呈する可能性が高いにも関わらず、DVT 発症前に診断することは困難である。下肢静脈超音波検査における大腿部での呼吸性変動法は、骨盤側の DVT のスクリーニングとして用いられ、呼吸性変動消失症例では骨盤内での DVT の存在が示唆される。しかし、呼吸性変動が左側大腿部のみで消失しているにもかかわらず、骨盤内に DVT を認めない症例が存在する。今回、これらの症例について検討を行った。【対象】